



冬季の乳質管理について

冬季の乳質管理の要点をまとめました。良質乳出荷の参考にしてください。

□パイプラインの洗浄温度を保つ

アルカリ性洗剤、酸性洗剤による洗浄は、洗浄温度 60～80℃、排水時の温度は 40℃以上が推奨されています。冬季は、推奨温度が保てず、汚れが残り、生菌数が増加することがあります。

【主な対策】

- ・ボイラーの設定温度を高くする。
- ・前すすぎの温度を 50℃以下の範囲でなるべく高くする。
- ・排水時温度が 40℃以下にならないよう、確認する。

例) 配管戻り口付近に温度基準を示したシール添付なども有効です。

□乳頭の荒れに留意する

乾燥する冬季は、乳頭が荒れやすくなります。ひび割れができると、入り込んだ汚れが落としにくくなり、黄色ブドウ球菌(SA)を中心とする乳房炎の発生、さらには生菌数の増加につながります。

【主な対策】

- ・保湿効果の高いディッピング剤を使用して、乳頭の荒れを防ぐ。
- ・温かい脱水タオルやプレディッピング剤でふやかしてから拭き取る。
- ・乳頭側面は捻るように、乳頭口はこするように、また乳頭の汚れは意識して全て拭き取る。

□冬こそ換気する

換気が不十分だと牛床が湿りやすく、乳房炎の原因になります。また、アンモニア濃度が上昇し、呼吸器病の原因になります。

【主な対策】

- ・窓や扉はウオーターカップが凍らない程度に開けておき、換気扇をゆっくり回す。
- ・換気扇のない牛舎でも、暖かい日や日の当たる日中は窓や扉を開放するなど、こまめに開け閉めをする。

※いちど窓を閉め切ると結露で窓が凍り付き、一冬中開けられなくなるおそれがあります。風雪の強い日でも、窓は開けたままにしておき、開いた部分に再利用紙袋を詰め込むなどの工夫をしている事例があります。

当センターHP→技術情報「乳牛・飼料作物ほか」もご参照ください。



普及センターHP